2024年度 高校生未来サミット記録誌
KOUKOUSEI MIRAI SUMMIT VOL. 6

高校生未来サミット

VOL. 6

KOUKOUSEI MIRAI SUMMIT

福島で未来の話をしよう、今年も。
2024 高校生未来サミット開催。

震災に触れて学ぶ。

13年前は、ついこの間のこと。

仙台空港で大阪と福島の高校生が合流し、6回目となる2024年の高校生未来サミットがスタートした。今年は大阪の高校生11名と福島の高校生9名が参加した。太平洋に面する仙台空港は津波が訪れ、1階部分3mが浸水した場所だ。ここからバスに乗り、海沿いを南下し相馬市に向かった。

最初に向かったのは、東日本大震災と原発事故被害が継続している浜通りにある相馬市の農産物供給センター「野馬土」。原発事故以降続いている玄米の全袋検査を行う様子を視察した。全県で実施していたが、13年経った今は原発周辺の8市町村で実施されている。我々が訪れたときは今年穫れた令和6年産の玄米の全袋検査を実施している最中だった。お米の検査を行う機械を実際に動かしどのように検査の様子を視察した。

こうして検査され安全が確認された玄米には追跡可能なQRコードが貼られ出荷される。QRコードを読み込めば、携帯でどこでも確認できるという徹底した仕組みになっている。

高校生たちは、早速自分のスマホを使い産地や品種、放射能が不検出であることなどを確認した。生産者自身と消費者への確実な安全と安心を思い検査を続けている。

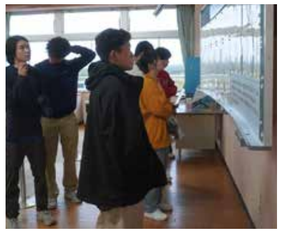
過去の津波被害教訓を活かす

次に向かったのは、震災遺構となった浪江町請戸小学校。請戸小学校は海沿いに位置していたため、震災で大きな津波被害を受けた場所だ。今は当時の学校をそのまま残し、見学ができるようになっている。建屋は残ったが、1階の教室、給食室、体育館は津波で多くが流された。当時の被害をそのままに残した1階部分は、津波の脅威を今も生々しく物語っており、高校生たちの眼差しにはどう写っただろうか。

請戸小学校は、幸いにも児童や先生は、地震直後に避難し助かることができた。津波への避難訓練が活かされていた。彼らが地震発生からどのように判断し避難したか、当時のことが記録されており、未だに当時の緊張感が感じられる。一方で、浪江町は原発の隣接地域だったため、翌日から避難区域となる。津波被害を受けた家屋で、まだ救えた命があったかもしれないのに避難しなければならなかった住民の無念の記録も動画で見ることができる。

13年、人の住めない町

大熊町の一部は震災から13年経った今でも自宅に帰れない帰宅困難区域に指定されている。バスの中から現地を見て回った。復興が進み、新しくピカピカな公的な施設や住宅が建ち並ぶ同じ町で、道ひとつ隔てると、住宅も学校も車も事故当時のまま放置され、時が止まったかのようだ。雑草が家を覆い朽ちていた。原発事故は長期の避難や移住を強いる、他に類を見ない重大な被害を遺したのだと改めて皆が感じる時間となった。



宿へ

浜通りを後にし、内陸部の中通りへ移動。私たちが向かったのは福島市にある土湯温泉YUMORI。各々部屋にチェックインし、荷物をおろししばし休憩の時間。

夕食は毎年お世話になっている樋口陽子さんのカレー。福島県産の米、野菜をふんだんに使ったカレーライスで食卓を囲んだ。お米うまいよね。と大阪の高校生から漏れ聞こえてくるのが嬉しい。食事後、本ツアーにも協力してくれている大阪のお米屋のつねもとさんからオンラインでレクチャー。令和の米騒動に至った経緯についての原因を教えてもらった。活発でフランクな議論と美味しい食事、温泉を堪能して濃い1日目の夜となった。

1.相馬市農産物供給センター「野馬土（のまと）にて/2.米袋が高く積み上げられる倉庫内 /3.検査用モニタリングの画面 /4.米の検査をする機器 / 5.スマホをかざしてQRコードを読み込む、お米の情報が知ることができる / 6.7.浪江町請戸小学校視察、1階部分を見学する高校生たち /8.請戸小学校昇降口にて記念撮影 / 9.大熊町帰宅困難地域をバスから眺める /10.浜通り視察を終え宿に到着した高校生たち / 11.食事前に生産者、料理人の紹介。食べ盛りの高校生たちはご飯が待ち切れない / 12.いただいたカレーライス。当然おかわりする人続出。和やかな食卓に。大阪弁と福島弁の教え合いがはじまる。/13.夕飯後のワークショップ。話したことない人と話してみよう!

DAY 1 2024.11.2 SCHEDULE

- 9:20 大阪チーム出発 @伊丹空港
- 11:30 相馬市野馬土にてお米の検査施設の視察

- 12:50 道の駅なみえ 昼食
- 14:00 請戸小学校視察

- 15:30 大熊町

- 16:00 浜通りから土湯へ
- 17:30 土湯温泉着

- 18:00 夕食

- 19:00 体験の報告交流

- 20:00 温泉・自由時間
- 22:00 就寝

新しい農業の挑戦者たち との出会い。

いつでも会いに来て、待ってるよ。

土湯温泉から土湯峠を超えて二本松岳下方面にバスが向かった。

食と農の次を考える

到着したのは、「あだたら食農スクールファーム。」開かれた農業の実践場だ。実習農場が耕起区（耕した区画）・不耕起（耕さない区画）に分かれ、様々な作物を栽培している。

学舎で根本代表の話を伺った。「作物を育てるのにマニュアルはない。」「ここは学んで実践で試す場所」「雑草という草や害虫という虫はなく、草や虫たちがいて地球が成り立っている。」「本当の持続可能な食と農のあり方を模索し、お金に心配せず農業ができて食べ物が得られる社会を目指したい」と締めくくった。

次に二本松市東和地区で2024年４月から新規就農したという新田弦五さんの話を伺った。これまでどんな人生を歩み「農業」という道に辿り着いた、ご自身の「哲学」に触れる内容となり、高校生たちの心も鷲掴みにしていたに違いない。

まずはやってみる!

ハザードマップを見て、地盤の強い二本松市を移住地として選び、夫婦で農薬・化学肥料不使用のオーガニック野菜を栽培をはじめた。「移住と就農までの道のりは大変だったけれど自分たちは出会いに恵まれた。だから出会いを大切にしてほしいし、自分のやりたいことをまずはやってみてほしい。」最後に「俺はここにいるから！会いたくなったらいつでも会いに来て！」と心に残る言葉を残し自身の畑に戻っていった。その後、根本さんの案内で圃場を見学し、農場を歩いてみて耕起区と不耕起区の土壌や栽培方法の違いなどを見た。

昼食を経たあと、二本松市にある農業と太陽光発電を組み合わせた営農型発電（ソーラーシェアリング）の農場へ向かった。東京ドーム約 1.2 個分の畑でシャインマスカットなどのブドウ７種類、エゴマ、大豆などの穀物を栽培している。

この日は農場長の塚田晴さんにご案内いただいた。 ここで行う営農型発電とは、トラクターや機械が入れるほどの高さのソーラーパネルを設置し、その下で農業を行うという作物の生産と発電を両立できる仕組みだ。パネルの下では作物が育たないのではないかと思ってしまうが、作物に必要な量の太陽光は確保しているため、生育に悪影響は及ぼさない。むしろ、強すぎる光による日焼けから作物を守ったり、放射冷却を防いで霜が降りるのを防いだりするなどのメリットもある。このような仕組みが普及すれば売電で得た利益は農家の持続的な経営を支えてくれる。営農型発電なら山を削って自然や景観を壊すことなく再生可能エネルギーを生産し、問題となっている耕作放棄地の解消にもつながると塚田さんは話してくれた。ソーラーの下では作物だけでなく、肉用牛の放牧やゾウガメを雑草対策に飼育している。そのユニークな農業のあり方に、すでにソーラーシェアリングを知っていた人も、実際に自分の目で見ることで改めて新しい可能性を感じていたに違いない。

２日目のワークショップでは東日本大震災を経験した方の話や、福島の高校生が参加したドイツ高校生交流プロジェクトの発表を聞いた。東日本大震災のとき今の高校生はまだ幼かったため震災のことを覚えていない。「学校の授業や教科書で写真を見ることはあっても、あまり考えることができなかった。福島に住んでいても震災の時のことを知らない。」との話が多い。１日目に震災の被害を受けた双葉町や大熊町を見学してとても衝撃的だった。人が住めない、地震が起きた日からそのままになっている町。13 年が経過しても原発事故の影響で戻ることができない状況を目の当たりして、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと感じる。

同年代からの刺激

福島の高校生が参加したドイツ高校生交流プロジェクトの発表では、ドイツで行われている再生可能エネルギーの取組みや、歴史、政治について、またホームステイをして現地の高校生との交流した際の話をいただいた。発表を聞いた高校生からは、「自分と同じ高校生で色々経験していて凄い。」「とても刺激を受けた。」「自分も同じように自発的に行動できるようになりたい。」と声があがっていた。

1.あだたら食農スクールファーム圃場/2.新田さんの話を聞く自然と皆笑顔に/3.特別講師 新田さん /4.圃場にて、「虫とっといたで」/5.みんなで青空の下のランチ / 6.二本松営農ソーラー長靴に履き替えて / 7.ソーラーシェアリングの説明を聞く高校生たち /8.牛も人も互いに興味津々 / 9.ソーラーシェアリングの新入り雑草担当のゾウガメたち /10.宿にてワークショップタイム / 11.12 意外と?お互い打ち解けてしまうフルーツバスケット / 13.せっかくだから夜、散歩したい〜!と少しだけ夜の散歩を楽しむ高校生たち

DAY 2 2024.11.3 SCHEDULE

- 8:00 朝食
- 9:00 土湯温泉 YUMORI 出発

- 9:15 小水力発電視察

- 9:40 移動
- 10:10 あだたら食農スクールファーム到着

- 12:00 昼食

- 13:00 ソーラーシェアリング視察 @二本松・塩沢

- 15:30 福島市・ささき牧場カフェ着
- 16:30 土湯温泉 YUMORI 着

- 18:00 夕食

- 19:00 体験の報告交流

未来を担う高校生たちへ。 #1

何かあったら、何もなくても、いつでも会いに来てほしい

自分が何を語れるのかを何日か眠れずにイメージし続けた。タイトルは『遺言』だった。そしたら何より大切な気持ちに気付いた。それは『皆んなに会いたいと思えた気持ち』だったんだ。

みんな憶えてる？？ソファーに座っていても歳をとる、オリンピックはいつだって記録を更新する、若いからとか経験が少ないとか世界の大きな嘘だからね。皆んなは一人一人それぞれが特別であって、それぞれがヒーローなんだ。これからの世界を変える主人公。朝起きて眠るまで、誰よりも誰かの事を美しく考えて、悩んで上手くいかない日があっても『実るほど頭を垂れる稲穂かな』を忘れずに、威張らず謙虚に、だけれど『もっともっと』って強い意思を持って。皆んなと離れて寂しくって会いたいってどうしようもない俺だけど。何かあっても、何もなくっても会いにおいで。過ごした時間で友情は決まらない、俺は皆の味方です。全身全霊の無条件な愛を

二本松Iターン移住者 / 新規就農者 新田 弦五

未来への提言。

1 提言

5つのなりたい社会

提言要約

①人が許し合える社会
立場の違いを認めあう社会、固定概念に縛られず生きられる社会。

②農家がなりたい職業ランキング1位
農家は不安定な職業としてあげられることも多いが、魅力がある。アグリツーリズムや子どもの農業体験を通して魅力を伝えたい。

③他国に左右されない食料自給率
国民が皆農家になれば食料自給率があがる。災害や他国で戦争が起きても自給できるし、経済面も安定する。

④再生可能エネルギーの割合が高い社会
日本は他国に比べて、再生可能エネルギーに対する支援が少ない。一気に原発ゼロではなくとも実現したい。

⑤挑戦したい人が挑戦できる社会
経済面で不安がなく挑戦できるようにしたい。そして、経済を回していきたい。

2 提言

社会課題について自分のことのように考えていける社会

提言要約

今回の旅に参加するまで社会課題について知らないことが多かった。この旅で見たことを他の人にも発信したい。友人の中にも関心がない人が多い。今回学んだことを身近な友人などに伝えていくことが私たちにできること。印象に残ったことは、東日本大震災で浜通りの町がゴーストタウン化していることや、エネルギーについて、未だに答えがない現状。新規就農者の話を伝えていきたい。身近な体験を話すように構えずに対話ができる場があるといい。社会問題についてよりリアルに話していけると思う。

11月4日、最終日。福島大学食農学類棟を会場に高校生未来サミット「未来への提言」を班ごとにまとめた。ここには若い農業者も加わり、高校生と意見を交わした。この2日間で見たもの、聞いたこと、触れたもの、それぞれが感じたことを出し合いとにかく話し合った。話し合ったことを各班で発表した。

3 提言

1人1人が主体的に行動できる社会を目指して「知る」、「学ぶ」、「考える」

提言要約

これから未来を作るために必要なこと
1つ目は「知る」：農業の人材不足やエネルギーなど、皆に知ってほしい。教科書に載せる、農業体験の場を設ける、農業に触れる機会を増やすことで農業をより知ってもらう。
2つ目は「学ぶ」：田植えや収穫体験など生きたた学習。
3つ目は「考える」：課題解決にむけて自分の意見を主体的に持ち行動をして自分の意見をしっかり持つことが大切。
実際に知って、学んで、深堀りをして、自分の主張を持つことで1人1人が主体的に行動する社会が実現できるのではないか。

4 提言

美味しい食べ物を食べ続けるために行動しよう！

提言要約

美味しいものは、生産者と消費者をつなぐ力がある。
人は、おいしい有機野菜が食べたいと思ったら、まずは売っている有機野菜を買うと思う。おいしいということが伝われば、有機野菜が売れるし、生産者はもっといっぱい作ろう！となるし、結果的には有機農家が増えるきっかけになる。買うことは小さなアクションだけれど、生産者を増やすことにもつながる。美味しいものを食べるために自ら行動しよう！

未来を担う高校生たちへ。#2

難しい社会課題だからこそ、楽しく話す機会を。

ディスカッションが始まる前の「米農家の時給は10円」という話も出たけれど、まるで米農家がみんな困窮者であるような印象になってしまうと思った。農業は「大変だ。儲からない。」そういう農家の方が多くいるのは事実。私もそうだ。けれど「大変だ。弱者だ。」と主張することで、より弱者であることに甘んじてしまうのではないか。このような印象を持つ高校生も多いように感じた。

また、原発問題に関して、今回のサミットで初めて深く知ったという高校生も多くいることがわかった。確かに「原発問題を自分の周りの友達と話しましょう」というのは難しいかもしれない。でも話していて面白くない話題も楽しく話す場というのは必要だ。私自身もディスカッションに参加して、「いかに楽しく友達と話せるのか」を高校生の彼らに伝えることができたらと思いながら話に参加した。農業問題、エネルギー問題は単純ではなく答えが簡単に見つからないかもしれない。若い彼らにはこうした議論をすることや、いろんな意見があることを楽しみ、学んでほしい。

二本松市 Uターン新規就農者 / 菅野 大地

未来を担う高校生たちへ。#3

農業の夢を語ることを忘れない。

農業の世界では私が取り組んでいるような新しいものは歓迎されないことがあり、なるべく目立たないようにと活動をしていた。だから自分の取り組みを人に話すことは初めての経験だった。

ディスカッションする中で、もっと農業を知りたい、知らなくてはいけない。という高校生たちの意見を聞くうちに、私のような考えがあるから、農業は閉鎖的なイメージがあるのかもしれないと気付いた。農業のイメージはきつい、汚い、儲からない。どこに行ってもこの単語が出る。これを聞いた若者は農業に興味を持つだろうか。新たな取り組は発信せず、ネガティブなイメージ、印象を発信し続ける。私たちの発言が若者が興味を持つ機会を潰しているのではないか。

儲けるためには、生活するためにはどうしたらいいのか考え、行動する必要がある。そのうえで活動、自分の夢を発信して夢や憧れを持つこと、挑戦する楽しさを知ってもらうことで農業に興味を持ってくれるだろうと感じ、自分の考えを180度反転させることができた。今後も夢を語ることを忘れずに活動していきます。

大玉村 Uターン農業者　佐原英晃

高校生未来サミット 2024 感想文

福島の農業・震災・エネルギーを現物・現実・現地という3つの「現」を経験でき、地震の被害を受けた土地のことをしっかりと学ぶことができました。マスメディアでは知ることができない、帰還困難区域の現状や、津波の被害の様子など、知らないことばかりでした。でも、原発事故から立ち上がるために、人々が様々なエネルギーを使おうという復興への動きも見ることができました。同時に自分の周りで起こるフードロスや令和の米騒動などの問題も再確認できました。震災についての無知さも知りました。南海トラフも懸念されている中、福島を含めた東北の震災は他人事ではないと自覚し、今回の学びを忘れず、防災・減災を個人でできるようにしたいです。

大阪の高校生と交流したことで、まだまだ福島や原発のことについて広めていかなければならないと実感することができました。また、農業について知らなかったことがたくさんあったので新しく知り学ぶことができたのが、とても有意義な時間となりました。まだまだ知らないことは自分から学んで知って吸収して、その知識を様々なところで工夫しながら使ったり伝えたり出来たらいいなと考えているので、もっと自ら学びに行く姿勢を深めたいと感じています。

最初は同じ学校の生徒もいなく、上級生ばかりだったので不安でしたが、皆さんが優しく、すぐに仲良くなることができました！ また様々な方のお話を聞いて、十人十色の考え方、生き方があるのだなとためになりました。西日本の方達にも東日本大震災について知ってもらうことができてよかったです。色々な地域や国に共有して、再生可能エネルギーや原発問題、農業の重要性について考えてもらいたいです。

初めは農業について詳しく知らなかったので難しいかな？とか、ついていけるのかな？と不安でした。けど講師の方々はそんな私でも分かりやすく説明してくれて農業の楽しさが分かりました。また、普段実際に見る機会が無い被災地に行って、とても衝撃だったのですが教科書や授業だけでは知ることが出来なかったことも知れて良かったです。大阪の高校生と福島の高校生とが共に学んだ3日間。とても楽しかったです!! この3日間は私にとって学びだけでなく沢山の人から人生を変えるきっかけを貰いました。これからは前向きに！夢を叶えるために頑張りたいと思います！ 高校生未来サミットという機会を作ってくれてありがとうございます！

震災や原発のこと、米騒動や農業について、そしてドイツのことや再生可能エネルギーなどなど本当に盛りだくさんで知らなかったことをたくさん知れたし、実際にその場に行って見るという次のステージまでいくことが出来ました。またディスカッションも多く、自分の考えをまとめてみんなに発表して、互いに考えを共有し深めていくことでも成長出来たと思います。大人の方々からお話をたくさんお聞きして刺激を受けたのはもちろんですが、同世代の高校生のみんなからも刺激を得られました。みんなからパワーと勇気と希望をもらいました。凄い人たちばっかりで圧倒されましたが、私も負けないように頑張ろうと思えました。本当に何もかもが充実していて大大大大満足で終われました。このプログラムを通して自分は考えることは出来るけど、行動にうつせていないということがはっきりと浮き彫りになったように思います。また、知識が少なく偏りがあると思いました。なので、まず知ること。そして現地に行って見て聞いて体験してというように次のステップを踏んでその上でしっかり自分の考えを確立させていきたいなと思いました。また、遠い場所であったり遠い昔のことも自分の事のように考えてみる必要があると思いました。他にも積極的にコミュニケーションをとったり、自主的に自分の考えを発表したりと、何事に対しても意欲的に意識的に取り組んでいこうと思いました。

耕さない農業の話やソーラーシェアリングの色々な利点の話、ドイツに行って過ごしていた際の話などの、ためになる話を沢山聞けて有意義な時間になりました。また、大阪の方たちと交流して元気をたくさん頂く事ができました。ありがとうございました。ソーラーシェアリングの話がとても興味深かったので、色々なところでソーラーシェアリングを広めたいです。

自分がこのプロジェクトで1番印象に残ったことは二本松ソーラーシェアリングです。再生可能エネルギーと農業という一見何も繋がりのないものでもうまく組み合わせて二つの産業を成り立たせるということがいいなと思いました。また、ソーラーシェアリングの課題なども学べて自分もその課題を解決したいと思い、将来の幅が広げられると思いました。小水力発電所では日本には川などがたくさんあり、小さい水力発電を福島から、日本全国に広めたいと思いました。自分は15年福島に住んでいましたが、小水力発電やソーラーシェアリングなど全く知らなかったのでもっと福島について学びたいとこのプロジェクトを通して感じました。最後に私が驚いたことは大阪の高校生です。農家さんの講義を受けた時に質問などをした時に鋭い質問をしていて福島について真剣に考えているんだと思いました。みんなやさしくてとても満足した3日間でした。ドイツの皆さんに福島の農業や原発についてこのプロジェクトで学んだことを伝えたいと思います。また、このプロジェクトを通して自分は全世界に福島を知ってもらいたいと思うようになりました。

3日間で初めて見るもの、聞くことが多くてたくさんの学びがありました。請戸小学校の見学では、実際に自分の目で確かめることがすごく大切なんだと学びました。震災のことは学校で習ったり、ニュースで報道されているのを見るくらいで、分かりずらいところもあったけれど、自分の目で見ることによっていろいろな感情が出てきました。ソーラーシェアリングは初めて聞く言葉でしたが、ソーラーパネルの下で農業をすることで太陽の光が抑えられたり、土地が狭くても両方することができると知って、もっとソーラーシェアリングについて調べてみようと思いました。新田さんのお話やワークショップを通して 大人の人や高校生など様々な立場の人から話を聞き、とりあえず自分のやりたいことやってみたいことに挑戦してみていいんだなと思いました。そこで失敗しても成功しても次に繋げることができるのではないかと思いました。3日間で学んだことを進路選択に生かしたいです。

震災当時の思いや葛藤、苦しんだことの話を聞いてみたくて参加させていただきました。そのような話も聞けましたし、みんなで楽しみながら福島の農業を学んで少し観光出来た思い出はとても印象的で感慨深かったです。大阪の農芸高校や能勢分校の皆さん、福島の高校生と出会えて本当に幸せで恵まれているなと実感しました。有意義な2泊3日をありがとうございました。常に自分事として考え抜くことを日々の日常生活で養い、これからたくさんの人と出会うことになると思うので、出会いを大切にしコミュニケーション能力を増やしたいと考えています。

有機栽培は、とても難しいものだとかんがえていました。しかし、新田さんの話などを聞いて何事も一度は挑戦するべきだと思いました。農業も、自分の夢である福島の食材を使ったカフェの経営にも挑戦して福島をもっと伝えていきたいと思いました。

福島の現状とか新しい農業の形、それを話し合って自分なりの考えを深めることが出来てとても良い機会でした。

自分では想像つかない人生を送っている人の話を聞くことができて小さなことでもいいからやりたいことはやろうと思いました。福島でも復興できてないとこがあることは知っていたけど、自分の目で直接見るのは初めてだったので衝撃でした。

自分が知らなかった農業の今の実態とか大変さを農業関係者の方に聞けて自分たちが思っている以上に大変できついんだなと思いました。また、ソーラーパネルの下で牛とかブドウを飼育・栽培してるのを見て今まで見たことなかった農業の形だったので面白いなと思いました。

自分が知らなかった農業の世界を新たに知ることができてとても良かった。また、ソーラーシェアリングや土湯温泉での小水力発電などを見て、日本のエネルギーの可能性を感じた。3日間を通して、大人の方々から聞いた話や、実際に見たもの、高校生と交わした意見や提言が自分の中で新しい学びになった。今回参加してとても良かった。

私はこのプログラムを通して、人のつながりの大切さや今抱えている社会課題について深く知ることができました。私は農業分野について関心がなかったので不安でしたが、大阪の高校生たちが分からないワードを教えてくれたり、逆に私のことを聞いてくれたりして、お互いのことをリスペクトしあっていて、私もマネしなきゃと思いました。
私はこのプログラムで持続可能なエネルギーや、農の未来（有機農業）など、これから生きていくうえで大切になってくることを学びました。提言発表で発表したように、今ある社会課題について自分のことのように考えていける社会を目指したいです。小水力発電や地熱発電は知らなかったので、もっと詳しく勉強したいなと思いました。